

4. 中央競技団体の役職員に関する調査（個人調査）

本調査では、各団体への調査とともに団体の役職員のうち、「役員（常勤）」「正規雇用者」「契約／嘱託職員」および「出向」の個人を対象として競技経験の有無や入職経路などを調査し、57団体の365人から回答を得た。

回答者の男女比をみると男性が57.4%、女性が42.6%であった。団体を対象とした調査（p.15、表7）における「理事（常勤）」「正規雇用者」「契約／嘱託職員」および「出向」の男女比は、男性が61.5%、女性が38.5%のため若干男性の回答率が低い、大幅に異なっていない。ただし、対象となる役職員（768人）のうち、365人（47.5%）からの回答にとどまっているため、以降の分析結果を中央競技団体の役職員の全体傾向として扱う際には留意が必要となる。

4-1 基本属性

1) 年齢および雇用形態

対象とした役職員の基本的属性として、年齢および現在の雇用形態をみた。平均年齢をみると、「役員（常勤）」が62.0歳、「正規雇用者」が43.4歳、「契約／嘱託職員」が49.8歳、「出向」が44.2歳であった（表8）。性別にみると、「役員（常勤）」が男性63.1歳、女性52.0歳、「正規雇用者」が男性44.0歳、女性42.6歳、「契約／嘱託職員」が男性58.2歳、女性44.8歳、「出向」が男性46.2歳、女性31.0歳であった（表9）。正規雇用者の平均年齢は差がないものの、「役員（常勤）」「契約／嘱託職員」「出向」については女性よりも男性の方が平均年齢が高かった。

表8 中央競技団体の役職員の平均年齢（雇用形態別：全体）

(歳)

雇用形態	全体
役員(常勤)(n=41)	62.0
正規雇用者(n=219)	43.4
契約／嘱託職員(n=70)	49.8
出向(n=15)	44.2

表9 中央競技団体の役職員の平均年齢（雇用形態別：性別）

(歳)		(歳)	
雇用形態	男性	雇用形態	女性
役員(常勤)(n=37)	63.1	役員(常勤)(n=4)	52.0
正規雇用者(n=123)	44.0	正規雇用者(n=96)	42.6
契約／嘱託職員(n=26)	58.2	契約／嘱託職員(n=44)	44.8
出向(n=13)	46.2	出向(n=2)	31.0

次に、「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」に絞って、雇用形態の割合を年代別にみると、20代以下では72.2%である「正規雇用者」の割合が、30代では85.2%、40代では86.4%と年代が上がるにつれて高くなっている。50代では73.1%へと減少し、60代以上になると「契約／嘱託職員」の割合が急激に増加する（表10）。2010年調査では、50代の「正規雇用者」の割合が9割を超えていたが、今回の調査では7割台前半まで減少していた。

性別・年代別にみると、男性・女性ともに40代までは年代が上がるにつれて「正規雇用者」の割合が高くなっている（表11）。また、すべての年代で女性よりも男性の方が「正規雇用者」の割合が高い。

表10 中央競技団体の職員の正規雇用／非正規雇用構成比（年代別）（n=289）

(%)

年代	正規雇用者	契約／嘱託職員
20代以下(n=36)	72.2	27.8
30代(n=61)	85.2	14.8
40代(n=88)	86.4	13.6
50代(n=67)	73.1	26.9
60代以上(n=37)	43.2	56.8
全体構成比(n=289)	75.8	24.2

注 「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」を合計し、その構成比を示している。

表11 中央競技団体の職員の正規雇用／非正規雇用構成比（性別×年代別）

(%)

年代	性	正規雇用者	契約／嘱託職員
20代以下	男性(n=16)	87.5	12.5
	女性(n=20)	60.0	40.0
30代	男性(n=30)	93.3	6.7
	女性(n=31)	77.4	22.6
40代	男性(n=44)	97.7	2.3
	女性(n=44)	75.0	25.0
50代	男性(n=29)	86.2	13.8
	女性(n=37)	62.2	37.8
60代以上	男性(n=30)	43.3	56.7
	女性(n=7)	42.9	57.1
全体構成比	男性(n=149)	82.6	17.4
	女性(n=139)	68.3	31.7

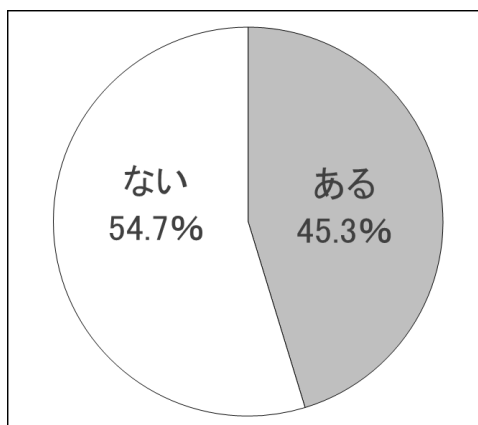
注 「正規雇用者」と「契約／嘱託職員」を合計し、その構成比を示している。

4-2 職員の競技経験および入職の状況

1) 競技経験・競技歴・競技レベル

役員（常勤）を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員、出向）の当該団体種目の競技経験をみると、競技経験が「ある」と回答した者は45.3%とおよそ半数にのぼった（図9）。

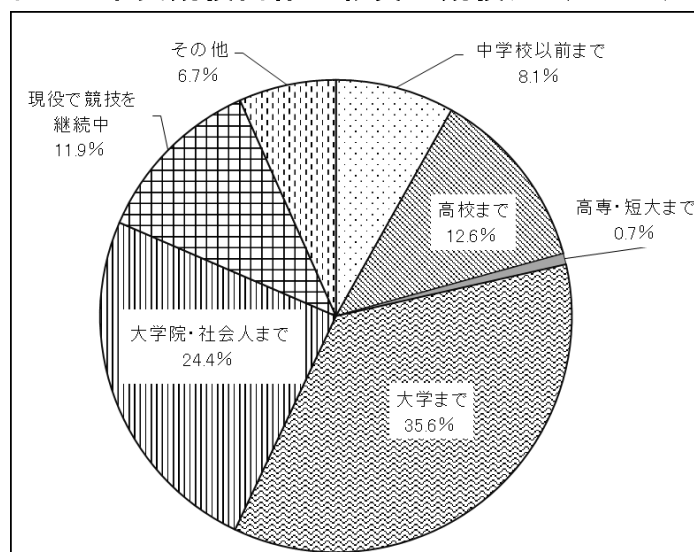
図9 中央競技団体の職員の競技経験（n=307）



注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

競技経験が「ある」と回答した者の競技歴は、「大学まで」が35.6%と最も多く、「大学院・社会人まで」（24.4%）と合計すると、6割の職員が大学入学以降も競技を続けていた（図10）。また、「現役」（11.9%）で競技を続けている職員がいる競技団体は12団体であり、武道や球技などさまざまな種目にみられた。「その他」では、「社会人から競技を開始した」「大学のみ」などの回答が得られた。

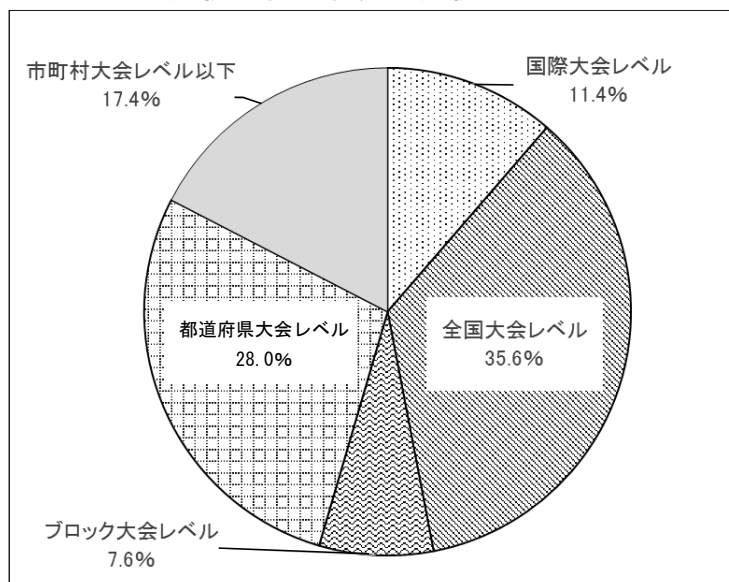
図10 中央競技団体の職員の競技歴（n=135）



注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

競技経験が「ある」と回答した者の競技レベルは、「国際大会レベル」が 11.4%、「全国大会レベル」が 35.6%となり、競技経験のある職員のおよそ半分、職員全体のおよそ 2 割が全国大会レベル以上の競技実績を有している（図 11）。

図 11 中央競技団体の職員の競技レベル (n=132)

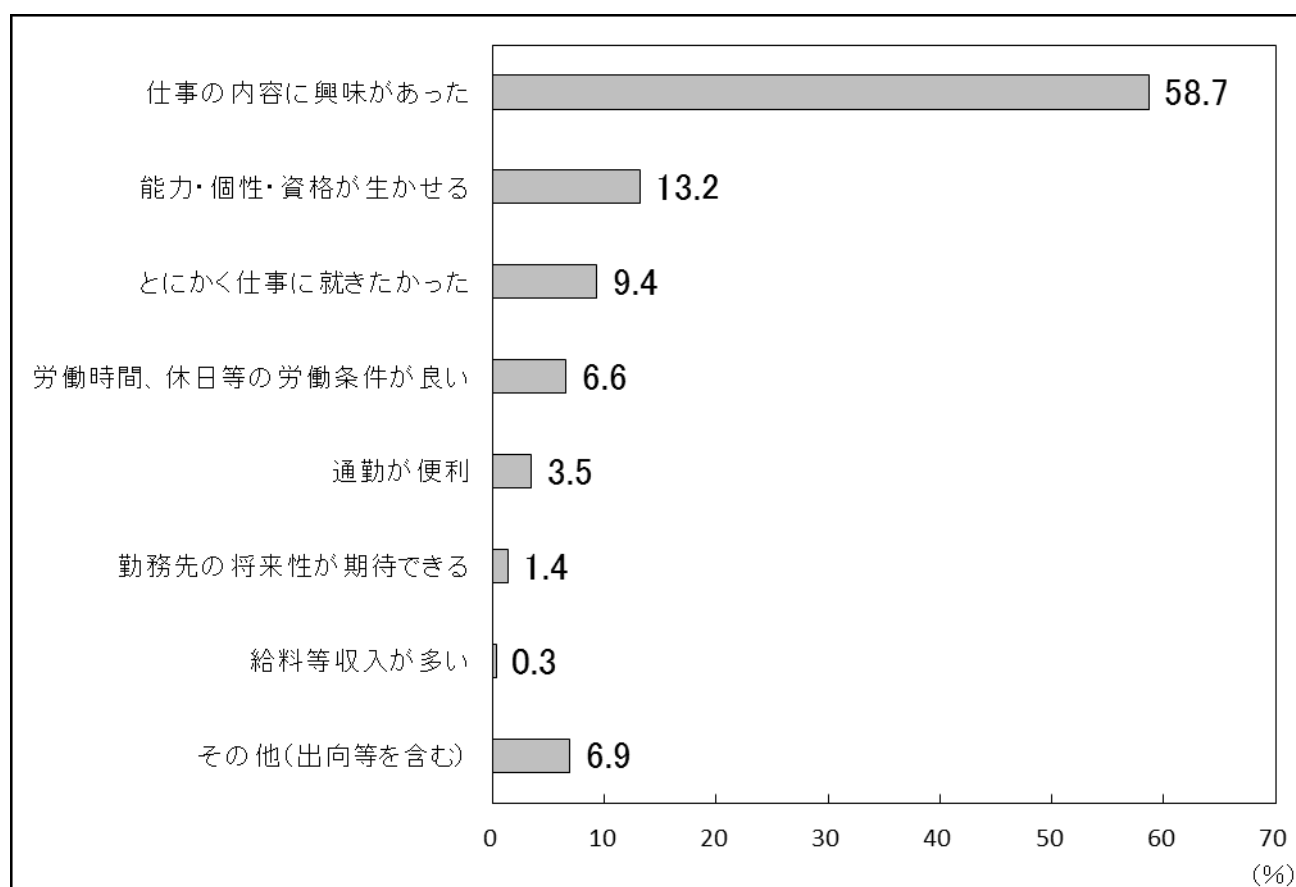


注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」「出向」のいずれかの雇用形態の者。

2) 入職理由・入職経路・入職前の仕事経験

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職した主な理由をみると、「仕事の内容に興味があった」が58.7%と最も高く、約6割を占めた（図12）。次いで「能力・個性・資格が生かせる」13.2%、「とにかく仕事に就きたかった」9.4%となった。「労働時間、休日等の労働条件が良い」や「給料等収入が多い」といった福利厚生を理由として入職した者は少ない。「その他」では、「誘われたから」「紹介されたから」といった理由がみられた。

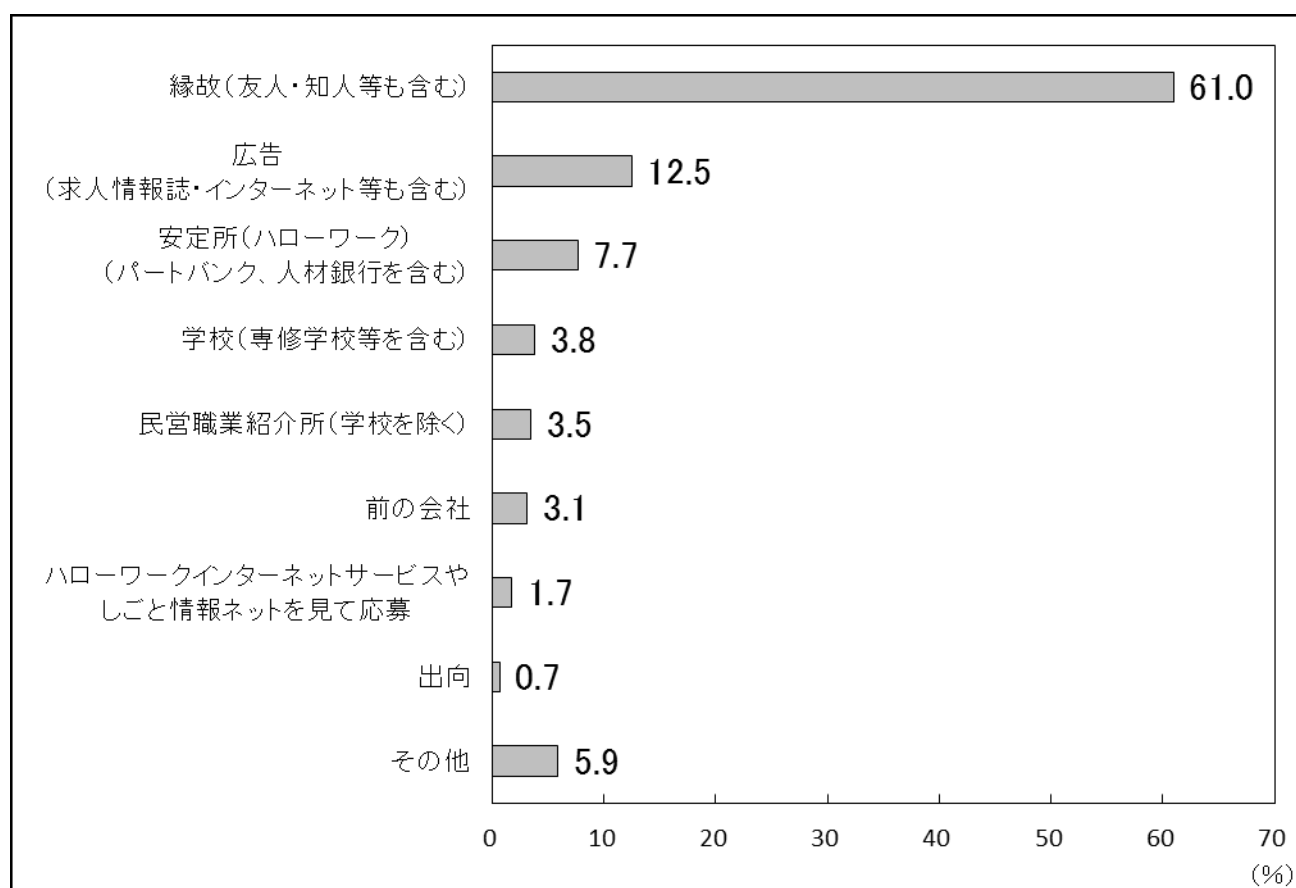
図12 中央競技団体の職員の入職理由（n=288）



注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」のいずれかの雇用形態の者。

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職経路（あっせん機関等）をみると、「縁故（友人・知人等も含む）」が 61.0%と圧倒的に多く、以下、「広告（求人情報誌・インターネット等も含む）」（12.5%）、「安定所・ハローワーク（パートバンク・人材銀行を含む）」（7.7%）が続く（図 13）。

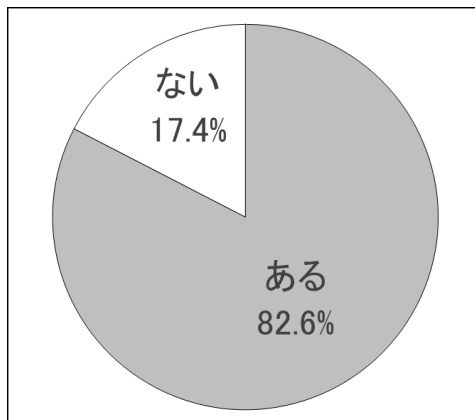
図 13 中央競技団体の職員の入職経路（あっせん機関等）（n=287）



注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」のいずれかの雇用形態の者。

「出向」を除いた職員（正規雇用者、契約／嘱託職員）の入職前の仕事経験をみると、「ある」と回答した者が 82.6%であった（図 14）。およそ 8 割の職員が転職を経て入職したことがわかる。

図 14 中央競技団体の職員の入職前の仕事経験（n=287）



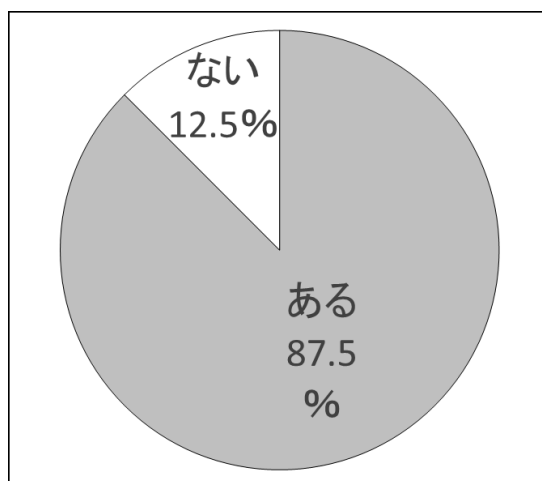
注 職員は「正規雇用者」「契約／嘱託職員」のいずれかの雇用形態の者。

4-3 役員（常勤）の競技経験および入職の状況

1) 競技経験・競技歴・競技レベル

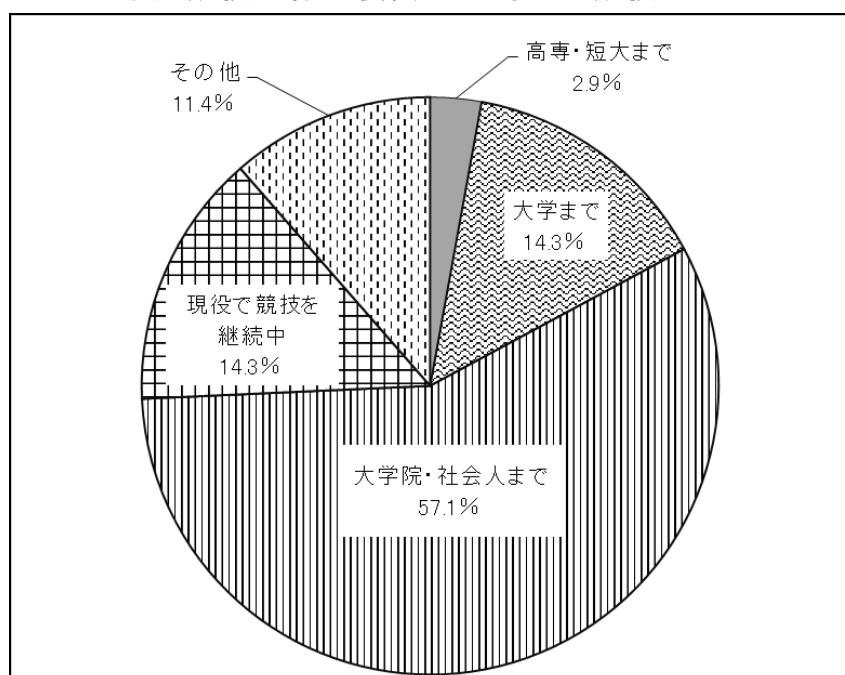
役員（常勤）の当該団体種目の競技経験をみると、競技経験が「ある」と回答した者は87.5%で、競技経験者の割合が高くなっており、中央競技団体における「競技者自治」の傾向がみてとれる（図15）。

図15 中央競技団体の役員（常勤）の競技経験（n=40）



競技経験が「ある」と回答した者の競技歴は、「大学院・社会人まで」が57.1%と最も多く、「大学まで」（14.3%）を合計すると、7割以上の役員（常勤）が大学入学以降も競技を続けている（図16）。「その他」では、「社会人から競技を開始した」「現在は中断している」などの回答が得られた。

図16 中央競技団体の役員（常勤）の競技歴（n=35）



競技経験者の競技レベルは、「国際大会レベル」が 28.6%、「全国大会レベル」が 45.7%となっており、競技経験のある役員（常勤）のおよそ 3/4、役員（常勤）全体の 6 割以上が全国大会レベル以上の実績をもつことがわかる（図 17）。職員（正規雇用者、契約／嘱託職員および出向）と比較すると、役員（常勤）の方が高い年齢まで競技を続けており、競技レベルも高いことが明らかとなった。

図 17 中央競技団体の役員（常勤）の競技レベル（n=35）

